



人生に「無駄」なことは存在するのか。

著者	中倉 卓也
雑誌名	教育を考える一言
巻	3
ページ	49-49
発行年	2013-06
URL	http://hdl.handle.net/2241/00124025

人生に「無駄」なことは存在するのか。

1. 教育を考える一言

“Everything has a price!”

2. 背景

当時私が中学生の頃に使用していた、英語の教科書に載っていた“Chris and the Puppets”という題名のお話の中で、登場人物（人形）が発した一言です。「あめふり」のリズムに合わせて、5体の人形たちが「ピッチ パッチ チャップ チョップ ランランラン」と自分の名前を歌うお話、といえば、読んだことのある方がいるかもしれません。

3. 考察

物語のあらすじやら何やらは全く覚えていませんでしたが、このフレーズだけははっきりと覚えていました。訳すと「すべてのものに価値はある」となります。当時の私はこの言葉を、文脈・物語を離れ一般的なこととして考えてみました。自分を中心に考えれば、身の周りに起こるあらゆる事柄はすべて意味があり、価値がある。クラスや部活動に関わる人間はもちろん、街中ですれ違う人や、通学路に咲く花一つをとっても、何らかの価値を持っている……中学生の私がそんなことを考えてしまうくらい、深く心に残った言葉でした。

この頃から私は、中学校の数学の教師になりたい、という夢を抱くようになりました。教育学部の初等教育課程に進み、小学校の免許も取得して地元に戻り教師をやる、と。しかし現在の私は、中高理科の教員免許しか持っていません。大学に入学した当初は、今ならまだ、大学を辞めて教育学部に入るという選択肢もある、と考えることが多かったです。教育学部に進学できなかったことに負い目を感じ、単に「回り道」としか考えられなかったのです。ですが、大学生活を続けていくうち、専攻する生命科学が自分の専門で、この分野なら誰にも負けないと胸を張って教師をやればよい、ということに気付いたのです。また自然科学に触れているうちに、「理科」という教科に魅力を感じるようにもなりました。いつの間にか、入学当初のもやもやは解消されていました。

それから今に至るまで、いくつか「回り道」をしてきました。しかしこれら「回り道」のすべてに価値を見出すことができます。教員になるなら色々なことを経験しておくべきだ、という言葉をよく耳にしますが、まさにその通りだと思います。ただ日本では特に、「学生は学校を卒業したら、すぐに職に就くべきだ」「一度仕事を辞めたら再就職は難しい」という風潮が強いように感じます。

「回り道」を含めたあらゆるものごとに価値がある、と考えると、人生に「無駄」なことなど存在しないのかもしれないですね。

引用参考文献

東京書籍『New Horizon』（教科書：中学校英語）